

#### 14. 海の森づくり事業（藻場造成事業（クロメ移植技術開発））

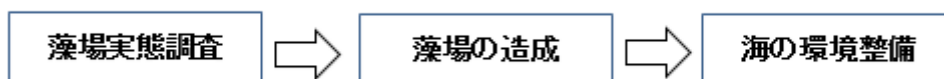
担 当：倉長亮二（増殖技術室）

実施期間：平成20～24年度

##### 目的・意義・目標設定：

近年、海域の海藻が急激に減少する「磯焼け」が全国的な問題になっている。このような事態を受けて、国や各県において藻場の回復が図られている。鳥取県では平成16年に策定された「鳥取県藻場造成アクションプログラム」に基づきアラメ移植事業を平成 16年から20年まで実施した。さらに平成21年度からは深場への海藻の移植策としてクロメ藻場造成試験も実施している。本年度は今まで行われてきたアラメ藻場造成の効果の検証とクロメ藻場造成試験を検証した。

##### 事業展開フロー



##### 成果の概要

###### 【課題1】アラメ藻場造成の効果調査

###### 1) 目的

アラメ藻場造成の効果を検証する。

###### 2) 方法

アラメの藻場造成を行った7か所について水中ビデオカメラ（MARINE SEEKERⅢ）を用い、繁茂の状況を観察した。

###### 3) 結果および考察（成果）

調査結果を表1に示した。アラメについては中山、赤崎および浦富では増加傾向が見られたが、他の地区では幼芽も見られない地区や魚類等の食害と思われる被害を受けている地区も見られた。詳細については別途報告する。

###### 4) 残された問題点及び課題

本調査では広範囲を目視により確認するため、水中ビデオカメラ（MARINE SEEKERⅢ）を用いた調査を行ったが、カメラの解像度の影響もあり他の海藻の詳しい種判別までは行えなかった。現在、全国各地で磯焼けによる海藻の減少が報告されている。幸い本県では磯焼け現象は確認されていないが、今後とも海藻の消長を注意深く観察し藻場の環境保全に対応していく必要がある。

## II. H24 成果 14 海の森づくり事業(藻場造成事業)

表1 アラメ効果調査結果

| 地区 | アラメ群落の状況             | 幼芽の状況     | その他                         |
|----|----------------------|-----------|-----------------------------|
| 淀江 | 4群落を確認。群落は小さいか単体。    | なし        | アミシグサが藻場を占有し、アラメは増加傾向にない。   |
| 中山 | 2群落を確認。群落は小さいか単体。    | なし        | 港東側ではアラメは増加傾向にある。           |
| 赤崎 | 4群落を確認。大きな群落もある。     | あり        | アラメは増加傾向にある。                |
| 浜村 | 3群落を確認。群落は小さいか単体。    | なし        | アラメは増加傾向にない。この地区ではウニは漁獲しない。 |
| 網代 | 2群落を確認。一部では大きな群落を形成。 | あり        | 食害の可能性がある。この地区ではウニは漁獲しない。   |
| 浦富 | 6群落を確認。群落は小さいか単体。    | 小さい株も見られる | アラメは増加傾向にある。この地区ではウニは漁獲しない。 |
| 東  | 1株のみ確認               | なし        | アラメは増加傾向にない。この地区ではウニは漁獲しない。 |

### 【課題2】クロメ藻場造成試験

#### 1) 目的

深場への藻場対象種としてクロメの造成技術を確認するため、繁茂状況を確認する。

#### 2) 方法

御来屋港東西において試験船おしどりにより水中ビデオカメラ（MARINE SEEKERⅢ）を用いてクロメの生息状況を観察した。観察は東西2本のラインで水深5m、10m、15m、20mの地点で観察を行ない、海藻全般の被度を観測するとともにクロメについて被度を記録した。

#### 3) 結果および考察（成果）

クロメ調査位置及び結果を表2及び表1に示した。御来屋港東西とも水深20mでは海藻の繁茂が見られず被度は0であった。そして、西側では全体的に被度が低く、且つ浅い方で被度が高い傾向にあり、クロメは水深10m及び15mで観察された。一方、東側は西側に比べ被度は高く、水深10m及び15mで被度4が観察されたが、クロメが観察されたのは133°30.2'のラインの水深5m及び15mの2点のみであった。

#### 4) 残された問題点および課題

漁業者からの聞き取りのとおり、御来屋港西側では海藻が少ない傾向がみられるため、今後スポアバック等の方法で造成を試みる。

## II. H24 成果 14 海の森づくり事業(藻場造成事業)

表2 クロム分布調査結果

| ライン        | ライン番号 | 水深 | 緯度      | 経度      | 深度 | 底質       | 海藻他        |
|------------|-------|----|---------|---------|----|----------|------------|
| 133° 28.8' | 1     | 5  | 3530.35 | 13328.8 | 2  | 砂(70%),岩 |            |
| 133° 28.8' | 1     | 10 | 3530.48 | 13328.8 | 1  | 岩        | クロム,モク     |
| 133° 28.8' | 1     | 15 | 3530.89 | 13328.8 | 0  | 岩        |            |
| 133° 28.8' | 1     | 20 | 3531.17 | 13328.8 | 0  | 岩        |            |
| 133° 29.0' | 2     | 5  | 3530.41 | 13329   | 2  | 岩と砂      | モク         |
| 133° 29.0' | 2     | 10 | 3530.82 | 13329   | 2  | 岩        | クロム        |
| 133° 29.0' | 2     | 15 | 3531.05 | 13329   | 1  | 岩        | クロム・サンゴ藻少々 |
| 133° 29.0' | 2     | 20 | 3531.24 | 13329   | 0  | 岩        |            |
| 133° 30.0' | 3     | 5  | 3531.12 | 13330   | 2  | 岩        | ワカメ・モク・ミル  |
| 133° 30.0' | 3     | 10 | 3531.4  | 13330   | 4  | 岩        | モク         |
| 133° 30.0' | 3     | 15 | 3531.49 | 13330   | 0  | 砂・岩少々    |            |
| 133° 30.0' | 3     | 20 | 3531.89 | 13330   | 0  | 岩        |            |
| 133° 30.2' | 4     | 5  | 3531.12 | 13330.2 | 1  | 岩        | ワカメ・モク・クロム |
| 133° 30.2' | 4     | 10 | 3531.39 | 13330.2 | 3  | 岩        | モク         |
| 133° 30.2' | 4     | 15 | 3531.89 | 13330.2 | 4  | 岩        | モク・クロム?少々  |
| 133° 30.2' | 4     | 20 | 3531.77 | 13330.2 | 0  | 砂・岩少々    |            |

被度  
 0:藻がない  
 1:藻が占める面積が全体の5%未満  
 2:5~25%  
 3:25~50%  
 4:50%~75%  
 5:75%以上

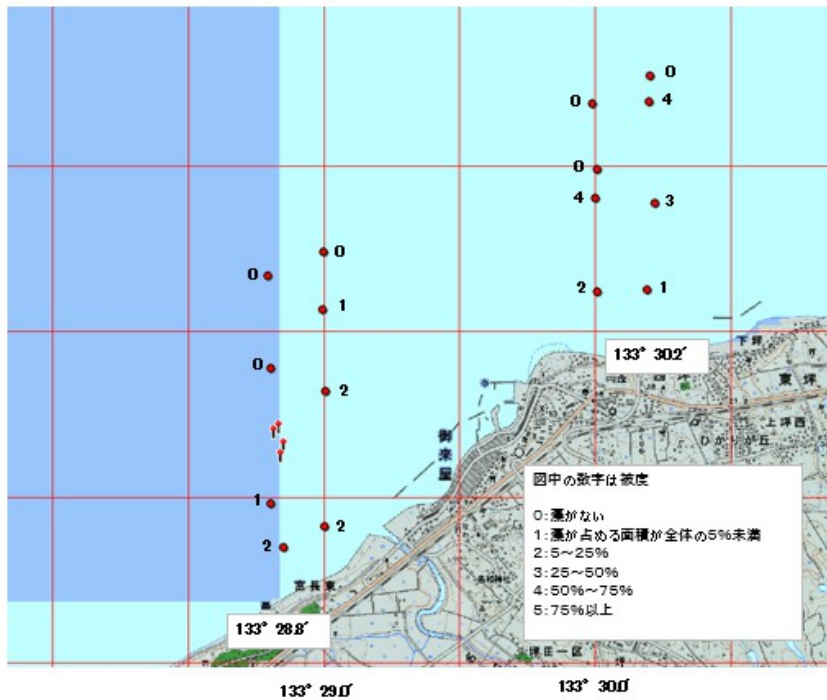


図1 クロム分布調査結果